

病院を核としたまちづくり推進特別委員会記録

開催日時 平成29年2月21日(火) 10:03~10:37

開催場所 第1委員会室

出席委員 9名

山村 幸穂 委員長
中川 崇 副委員長
池田 慎久 委員
森山 賀文 委員
大国 正博 委員
中野 雅史 委員
荻田 義雄 委員
出口 武男 委員
小泉 米造 委員

欠席委員 なし

出席理事者 林 医療政策部長 ほか、関係職員

傍聴者 なし

議 事

(1) 2月定例県議会提出予定議案について

(2) その他

<質疑応答>

○山村委員長 それでは、ただいまの説明、またはその他の事項も含めまして、質疑があればご発言をお願いします。

○森山委員 おはようございます。県立医科大学方面の質問は恐らく私だけと思います。医大・周辺まちづくりプロジェクトの推進事業の中で、年次計画に沿ってもろもろの事業を推進されますけれども、特にその中でも大きく注目されているのが新駅の問題だと思います。そのあたりはどういう見通しになっているのかが一番確認をとらせていただきたいところですが、それ以外についても、それぞれ年次計画に沿っておおむね順調に進んでいるのか、ご答弁をお願いします。

○河合知事公室審議官(医大・周辺まちづくりプロジェクト担当)兼医療政策部次長兼まちづくり推進局次長 新駅については県立医科大学周辺のまちづくりにとって非常に重要

なテーマということで、かねて近畿日本鉄道株式会社から応分の負担をして検討してもいいというお話をいただいて、現在、県と市と近畿日本鉄道株式会社が入って、3者で新駅の問題について検討を進めているところでございます。その中で、一番大きな問題が、八木西口駅を移転する形で新駅をつくることになっており、それについては橿原市が主体的に取り組む課題ですけれども、その八木西口駅の移転をどのようにしていくのかについて今3者でいろいろな協議をしている状況でございます。まだこの辺の検討については少し時間をかけていかないといけないと思っております。

そのほか、県立医科大学の周辺まちづくりについては、まずキャンパスの移転が大きな最初の取り組みになってくると思っております。それにつきましては、次年度、農業研究開発センターの跡地に移転するということですので、今年度桜井市に農業研究開発センターが移転しました。来年度ようやく除却工事にも入る状況になっています。

あわせてキャンパスの整備につきましては、どのような建物を建てていくのか、現在、県立医科大学の将来像ということで、県立医科大学がどういう教育研究をしていくのかという検討をしているところでございます。その結果を踏まえまして、次年度以降、県立医科大学の教育研究のあり方を十分実現できる建物整備に着手していきたいということで、建物の基本計画の検討を進めているところでございます。現在そういった形でキャンパス整備について検討を進めている状況でございます。以上でございます。

○森山委員 大体年次計画に沿って順調にいけているのかと。キャンパスのあたりの話で何か足かせになって、おくらしているということもない形でいけているというように聞かせていただきました。

新駅の問題は市が中心になって取り組んでいるという話も聞いていますけれども、この間ちょうど橿原市議会議員の選挙がありまして、いろいろな争点が上がっている中で、八木西口駅についてもその地域では今までからあった駅がなくなることが不便になると具体的に提言されている方もおられました。その不便をどう埋めていくのかを、はっきりと示せない状態で来てることも、聞くことができました。市が窓口になっているということですけれども、包括協定を結んでいろいろとやっていることもありますから、いい形で順調に進んでいけるように、引き続き取り組んでいただきたいと思います。

私からはこれで結構です。

○池田委員 私からも数点質問させていただきたいと思えます。

まず、奈良市の新奈良県総合医療センターの工事の進捗状況、順調にいつていると伺っ

ておりますが、開院の時期等について変更等、特に心配はないのか、そのあたりについてお聞かせいただきたいと思います。

○岡本新総合医療センター建設室長 新奈良総合医療センターの工事の進捗状況についてお答えします。

現在、ほぼ外枠の鉄骨工事も建ち上がっていますので、建物の外見上につきましては、ごらんいただけるところまで進んでいる状況でございます。今後は、内装工事であったり設備工事に入っていく段取りで工事は進めています。

工程上想定しております工事の進捗率は、現在約0.5%前倒しで進められていると確認しています。また、開院時期につきましては、工事の竣工は平成29年12月を予定しており、その後、病院機構で開院に向けてのさまざまな医師や看護師の訓練等々、内部の確認等がございますので、平成30年の春ごろと承っている状況でございます。以上でございます。

○池田委員 予定よりも少し早く進んでいるということで安心をいたしました。ちょうど1年後になろうかと思いますが、来年春の開院に向けて、ぜひ努力いただきたいと思います。

新病院ができますと、奈良市平松町にございます現在の奈良県総合医療センターが移転されて、そこを潰して更地にして地域包括ケアの拠点となるべき柱として新しいまちづくりが進んでいくことになろうかと思っております。平成33年のまち開き予定で以前から伺っておりますが、現在、まちづくり協議会等々で県、市、地元と一緒に協力を進めていると理解をしておりますが、以前まちづくりの基本構想が今年度中にはでき上がる見通しと伺っておりましたが、今現在どのようになっておりますでしょうか、お答えいただきたいと思います。

○野村病院マネジメント課長 平松町のまちづくりの進捗状況についてでございます。

ご指摘がございましたように、県では奈良県総合医療センターの跡地を活用いたしまして地域包括ケアの整ったまちづくりにすべく、奈良市、市医師会、地元協議会など関係機関と協力を続けてきたところでございます。平成28年度中に基本構想の策定を行う予定でございました。しかしながら、地元の方々との協力を通じてのご意見、ご要望、そして他府県の事例などもさらに参考に検討を続けていく中で、医療、介護をめぐるこうした現状につきましては絶えず変化しております、時代を先取りするような、時代に合った最先端を行くまちにするにはどうすべきかを考えていく中で、基本構想につきましては、もう

少し時間をかけて練らせていただけたらと考えているところでございます。また、同時に、奈良市と関係機関との協議もさらに深めてまいりまして、地域包括ケアのさらに整ったまちをつくることのできるのではないかと考えているところでございます。つきましては、来年度になりますけれども、平成29年度中にまずは基本構想の案を策定していきたいと考えております。

そのほか、平成29年度は、土壌汚染調査や現病院の解体工事に伴います設計もでございます。こうしたまちづくりに必要な事前の事業につきましては、粛々と実施する予定でございます。ただ、基本構想に関しましては少し時間をかけることとなりますけれども、平成33年のまち開きができるようにスケジュール感を持って進めていきたいと考えております。以上でございます。

○池田委員 地域包括ケアの整ったまちづくりをしっかりと進めていく上で少し時間をいただきたいということだろうと思います。今のご答弁で平成33年当初のまち開きの予定は変わらないということでございますので、地元の意見が、多種多様でさまざま出ております。それをしっかりと反映する基本構想であってほしいと思います。あわせて各関係機関と協議を進めていただいておりますが、そのあたりも十分反映した形で課長が今ご答弁されましたように、地域包括ケアの拠点、整ったまちづくりとして、時代を先取りした新しいまちができますように努力いただくことをお願いしたいと思います。以上です。

○山村委員長 ほかにございませんか。

○大国委員 私から質問をします。今、池田委員からも質問がありましたけれども、平松町の病院跡地の地域包括ケアシステムについてお尋ねをしたいと思っております。

これまで機会があるごとに質問させていただいてまいりましたが、今ご答弁があったとおり基本構想はもう少し先だということで、要はどういうまちづくりをするかという根本的な、この辺の話が非常に重要だと思っています。先般行われました第9回地域フォーラムにおいて市長、知事、そして済生会中和病院の今川院長のお話を聞かせていただいていたので、そこでもう少し明確なお話があるのかという期待を持ちながら聞かせていただいていたのですが、やはり課題が多いなというのが正直なところでございます。全体的には介護、あるいは看護職、そして保健師等のマンパワー不足の中で、いかに24時間の医療の提供体制がとれるかという知事から問題点の提起もございました。また、訪問看護ステーションの配置、まち全体のバリアフリー、アメニティーの問題等々、いろいろな問題点を指摘をされたところでもございます。こういったことを具体的にまちづくりとして

どう進めていくかという中身がもう少し聞きたいと思うのですが、現時点でどういう議論をされているのかご答弁いただければと思います。

○林医療政策部理事（地域包括ケア推進担当）兼健康福祉部理事 地域包括ケアの24時間365日ケアを提供できるようにするためには、どういうサービスをまず持ってくるの
がいいのか、そのサービス自体が本当にうまく回っていくのかという非常に大きな問題
があるかと思っています。特に医療と看護、介護がうまくマッチングした形でどう持
ってくるかは、なかなか全国的に見てもこうやればいいという、事例も見えにくい
ところでもありますし、それからここにはかなりの戸数、住まいというのがやって
きますが、どのような住まいを持ってきてどういう人たちをここで住んでいただ
くかもサービス提供と同時に、包括ケアの基本になってきますので、そういった
ところもいろいろ議論をしているところでございます。いずれにしても包括ケア
の行き届いた最先端のモデルになるようなまちがなかなかありませんし、奈良
県と少し違ういろいろな条件などがありますので、いろいろな事例が全国的に
見ても出てきていますし、包括ケアも次の段階ということもありますので、い
ろいろなことも含めてもう少し議論を進めたいと考えているところでございま
す。以上でございます。

○大国委員 もちろん各地域によってそれぞれ形は違うと思いますが、そうであ
って当然だと思いますが、平成29年度、国においてはそういった市町村、先進
的な事業についての補助等も行われるようでございます。この平松町の跡地
については、特に奈良県内の大きな5つのモデル地域がありますけれども、
その中でも知事の思いは非常に大きなものがあると期待をしています。や
はり住んでいる方が住み続けたいと、まず現状でそう思っただけの地域を
どうつくるかというのが非常に重要かと思っています。

先ほど申しあげました地域フォーラムの中では、元気で長生きしてもらいたい
という、健康づくりという視点のお話がありました。病気になったり、介護が
必要になったり、そのケアというのは非常に必要ですけれども、一方で、
できるだけそうならないようにする予防、健康づくりも含めて、この取
り組みはどのように反映し、どのように計画の中で落とし込んでいけるの
かと私はふと思いました。恐らくそういった視点を入れて健康づくりの
話を結構厚目にされましたので、そういう議論もされているのだとい
う気はしました。

例えば健康づくり、県の中では禁煙や野菜の摂取や減塩、運動など、い
ろいろな要素が必要だという結論を今お持ちでございますけれども、もう
一つ大事なのががん検診の受診

率の向上で私どもも注目をさせていただいております。各市町村のデータも用いて報告されましたけれども、奈良市は県の平均よりも伸び率が低いということで、最後市長も決意を述べられていました。けれどもこの地域は健康長寿の、全国1位の地域だというぐらいの先進的な取り組みがここでできたらいいのに。ここに住んでよかったと思っていただける地域包括というものが目指せないのかとフォーラムに出て感じたところでございますが、その辺について意見があればお願いしたいと思えます。

○林医療政策部理事（地域包括ケア推進担当）兼健康福祉部理事 地域包括ケアという言葉はケアの部分が前に出ていて医療や介護の体制づくりが中心に見えるのですが、実はそうではなくて、その場所で住み続けられるということが非常に大事です。知事も申しましたように、できるだけ健康で住み続けることがやはり基本になってくると思えます。まちづくりをするときに、そのまちで健康に暮らせるようなまち、ハード面、ソフト面を含めて、そういった視点が地域包括ケアの行き届いたまちづくりの中では必要になってくる。できるだけ要介護期間が短くなるようにするためにどういことをやっていったらいいかというのをこれからまちづくりの中で考えていく必要があると思えているところでございます。

○大国委員 そういう視点は非常に重要だと思いますし、医療と介護の連携ということだけではなく、今答弁がありましたように、健康づくりという視点をもう少し前に出させていただいて、最後に結論づけられましたけれども、地域の意識をどう醸成していくか、一人ひとりの意識をどう醸成できるかという環境づくりをこの地域でつくっていただくのは非常に重要かと感じた次第でございます。先進的な地域、今お住みになっている住民の方も本当に誇れるまちづくりをぜひとも実現していただきますよう、今後奈良市とも十分に協議をしていただきたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。以上でございます。

○山村委員長 ほかにありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

ほかに発言がないようですので、これをもって質疑を終わります。

なお、当委員会所管事項にかかわる議案が追加提出される場合には、当委員会を定例会中の3月8日午前10時半に再度開催させていただくこととなりますので、あらかじめご了承をお願いいたします。

それでは、理事者の方のご退室をお願いします。

委員の方はお残りください。

(理事者退席)

ただいまから委員間討議を行いたいと思います。

委員間討議もインターネット中継を行っておりますので、マイクを使って発言願います。

まず、平成29年度6月定例会において、調査を終了して、その成果を報告することになっております。調査報告書の素案を事前に各委員にお送りしております。お手元に配付しております調査報告書の構成、または成果の取りまとめとなる提言についてのご意見、あわせて各委員におかれまして病院を核としたまちづくり推進に対する思いやお考えがありましたら、この機会にご発言をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

○池田委員 事前にいただいておりました調査報告書の素案の8ページ、(3)、奈良県総合医療センター跡地の整備についてのところでございますが、奈良市が作成する基本構想に基づき奈良県もしっかりと関わり、必要な支援を行っていく必要があると記されていますが、基本構想は奈良県でつくることになっております。奈良市が作成する基本構想というのは、恐らくまちづくり包括協定に基づいてつくるいわゆる基本構想と。

これらが混在していると思います。病院を核としたまちづくり推進特別委員会での提言は、むしろ、奈良県が作成する基本構想に、重きを置いたほうがいいのではないかと考えておりますが、いかがでしょうか。

○山村委員長 今ご意見がございましたけれども、いかがですか。

○中川副委員長 私も池田委員がおっしゃいましたとおりかと思いましたが、その上で、奈良県でも基本構想はつくるけれども、奈良市が作成する基本構想にもしっかりとかわりという文言の書き方がいいのかなと思いましたが、以上です。

○荻田委員 病院を核としたまちづくり推進特別委員会は、今池田委員からお話があった奈良市が作成する基本構想ということが明記されています。これは地域包括ケアシステムのまちづくりということから奈良市の保健所が権限を有する中では保健所が大きくクローズアップされてきていますので、これはこれでいいかと思えます。

○池田委員 私が言いたいのは、基本構想という言葉が県が作成しようとしているこの跡地活用のプロジェクトにおける基本構想と、まちづくり包括協定に基づく一つの段階での基本構想が混在しているというか、基本構想が2つあることがややこしいのではないかという考え方で意見を申し上げたのです。ですから、例えば、奈良県が作成する基本構想について云々と、しっかりと取り組んでいく必要があることが一つと、まちづくり包括協定に基づいて奈良市とも十分協議というか、連携を図りながら新しいまちづくりを進めてい

く必要があるという表現のほうがわかりやすいのではないかという提案でございます。

○山村委員長 池田委員のおっしゃっていることはよくわかりました。ここで書かれている基本構想というのは、池田委員がおっしゃるように、まちづくり構想の中でこのまちづくり協定をつくられて、奈良市が基本構想をつくと書かれていますし、そういうことを意識してここに載っているのではないかと思います。それが正しいか間違っているかということではないと思いますが、県で取りまとめをするものなのか、私たちがここで議論してきたのは県の基本構想ということで議論してきましたので、そのことを何らかの形であらわすようにする必要があるのかについては調整したいと思いますが、よろしいでしょうか。

ほかにご意見ありませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

それでは、ほかにないようでしたら、先ほどの意見は改めて確認していきたいと思いますので、よろしくお願ひします。

ご意見がないようですので、これをもちまして委員間討議を終わります。

以上で本日の委員会を終わります。